

令和7年度第1回群馬県立農林大学校評価外部評価委員会 開催結果

事務局 農林大学校

- 1 日時 令和7年6月24日（火） 午後2時から3時まで
- 2 場所 群馬県立農林大学校2階 会議室
- 3 出席者数 委員7名、事務局7名
- 4 学校概要について
事務局から説明
- 5 農林大学校評価について
事務局から説明
- 6 委員長、副委員長選任
互選により、澁谷喜久委員を委員長に、齊田和則委員を副委員長に選任
- 7 説明事項
 - (1) 令和7年度群馬県立農林大学校評価に係る重点方針、評価項目について

<委員の主な意見>

「1 質の高い教育の実行」

- ・寮について、複数人での利用ではなく個室にすることで、入校生を集めやすくなるのではないか。
- ・大型モニターの設置について、視覚的な学習は効果的だと思う。

「2 実績の上がる学生募集の実行」

- ・高校教員の農林大の教育内容に対する理解促進が学生募集に重要であり、教員が農林大を見学する機会を持つことには大きな意義がある。継続的に実施していただきたい。

「3 実績の上がる進路指導の実施」

- ・農業高校からの卒業生の就農率がどのくらいかわかるデータがあるとよい。
- ・実績を上げている若手農業者による講義は、学生の農業に対するモチベーションを高めるのに有効である。今後もカリキュラムの中に積極的に取り入れていくべきである。
- ・土壌管理の適正化は作物共通の課題であり、土壌医の資格取得は積極的に進めて欲しい。就農する場合のみならず、農業関連分野に就職する際にも有利だと思われる。

「4 県民の期待に応えられる研修の実行」

- ・ここにいる間に中型免許か準中型免許が取れば有難いのではないかと感じた。

(2) その他

特になし

8 結論

- ・「令和7年度群馬県立農林大学校評価 評価システムシート」の評価項目等について、承認された。
- ・委員の意見を踏まえ対応を検討する。

◎資料

- ・次第、委員名簿、群馬県立農林大学校評価実施要領、令和7年度群馬県立農林大学校評価実施スケジュール、令和7年度群馬県立農林大学校評価システムシート等

- 日時：令和8年3月12日（木）13:30～15:30
- 場所：農林大学校 教育棟2階 会議室
- 出席委員：澁谷委員長、齋田副委員長、町田委員、後藤委員、石田委員、塚越委員
（欠席）串田委員
- 事務局（内部評価委員）：砂盃校長、農林部 大隅部長、研修部 林部長
農林部 栗原次長、清水学科長

- 1 開会（大隅部長）
- 2 あいさつ（砂盃校長）

年度末のお忙しい中、お集まりいただき感謝。1年経ったが、1年を経て自分達が成長したと思えるような学校にしたい。勉強する環境も、去年より少しでも良くなったと感じられるような学校にしたい。今年度は、小さいケガはあったが大事に至らず、就職なり、就農なりできるところになっている。課題研究発表会も、関東ブロックで1位から3位まで独占し、全国大会も群馬県として史上初の全国優勝を果たした。

まだまだ課題も多く、来年度に向けて改善点なども考えたので、皆さんにも、ご審議いただきたい。モニターも入り、カーテンも新しくなり、教習コースも全部LEDにした。来年は搾乳の機械も新しくする。再来年の工事に向けて、体育館や寮の改修の設計もする。色々なところを着手した年になった。引き続き、皆さんにも見てもらえるような学校にしたいと思っているので、よろしくお願ひしたい。

- 3 協議事項（進行：澁谷委員長）
 - (1) 令和7年度群馬県立農林大学校学校評価について
「令和7年度群馬県立農林大学校学校評価システムシート」
 - 重点方針 1 質の高い教育の実行
 - 2 実績の上がる学生募集の実行
 - 3 実績の上がる進路指導の実施
 - 4 県民の期待に応えられる研修の実行

<委員の主な意見>

【課題研究発表会について】

委員から、全国大会での発表内容について「科学的な根拠を示した説得力のある発表であり、それが成果に結びついた」との評価があった。また、「本人だけでなく、先生方の指導力があってこそその成果であり、生徒が自信をつける良い機会になっている」との意見が出された。

また、「若い人が自信をもって表現することは、農業の魅力を伝えるうえで非常に重要であり、今後も発表の機会を増やしてほしい」との要望があった。

【有機農業交流会について】

有機農業交流会の開催について、「独立すると孤立しがちだが、孤立させない繋がりを作っていけるのは、卒業後の大きな支えになる」との評価があった。

【入校生確保・情報発信について】

入校生確保の取組について、「高校生や学校の先生に対する情報発信の重要性」が示された。特に、「InstagramなどのSNSを活用し、学生の様子や日常を発信することで学校の魅力が伝わりやすくなる」との意見があった。

また、「先生からの一言が進路選択に大きく影響するため、高校教員との連携が重要である」との意見も出された。

【進路指導・資格取得について】

進路指導については、「学内企業説明会、体験学習、面接指導などが体系的に行われており、就職決定率100%は大変評価できる」との意見があった。

資格取得については、「現場で即戦力となる資格が多く、学校で取得できる意義は非常に大きい」「日本農業技術検定で全国トップの合格率を達成し、最優秀団体表彰を受けたことは素晴らしい成果である」と高く評価された。

【実践学校・公開講座について】

一般県民向けの研修や公開講座について、「人材育成と農業への理解促進の両面で重要な役割を果たしている」との評価があった。

農業機械安全利用研修について、「研修できるのが農林大の研修部だけになるので、ニーズにできるだけ応じて頑張ってもらいたい」との要望が出された。

【まとめ】

本委員会では、群馬県立農林大学校の取組について高い評価が示された。達成度では、生徒がケガをしたことにより「D」評価としたものが1つあったが、総じて「A」評価が多かったことに関して委員の理解が得られた。

今後も委員からの意見を踏まえ、質の高い教育、実績の上がる学生募集・進路指導、ニーズを踏まえた研修の実行に取り組む。

(2) その他 特になし

4 令和8年度の取り組みについて

令和8年度に実施する以下の事業について、栗原次長から説明

- (1) 学生環境向上事業
- ①現場教室空調設備設置工事
 - ②生産施設等教育環境整備
 - ③生活環境整備 (R8 設計委託費)
 - ④体育館整備 (R8 設計委託費)

- (2) 耕畜連携による環境負荷低減・資源循環型農業の深化
- 有機農業推進、乳牛舎整備、水田稲作入門コースの設置

5 令和7年度全国農業大学校等プロジェクト発表会・意見発表会について

農林水産大臣賞を受賞した後藤君の発表を見ながら、学生が作ったイチゴを試食

6 閉会 (大隅部長)

以上